

2022年4月

鈴鹿医療科学大学大学院細胞検査士資格取得コースの概要

鈴鹿医療科学大学大学院では、中部地区の大学院として初の細胞検査士養成コースを開設しました。本学は、めざす資格を確実に取得することを目標に、学部では、臨床検査技師国家資格、大学院では細胞検査士認定資格の取得に必要なカリキュラムを展開します。大学院では、細胞検査士に必要な高度専門教育である細胞診断学特論並びに細胞診断学実習、さらには提携先病院での病理・細胞診臨床実習等を行います。本学は、堅実な教育方針にもとづいて、学生の夢を一步一步、着実に実現できるように丁寧に支援します。

細胞検査士とは？

細胞検査士は、公益社団法人日本臨床細胞学会が細胞検査に関する高度な専門能力を有する臨床検査技師に認定する資格です。国立がんセンターによると、日本人は2人に1人は一生のうちに何らかの「がん」になると言われており、がんはすべての人にとって身近な病気です。細胞検査士は、体内から排出される、婦人スミア、喀痰、尿、胸水、腹水、乳腺、甲状腺等からがん細胞や前がん病変の異型細胞をいち早く見つけ出し、がんの早期発見、早期治療に繋がります。

高校生の皆さんへ

・本学からのメッセージ

学部4年間で臨床検査技師の国家資格取得を確実に目指してください。この分野の資格は中途半端な学習では取得することが非常に困難です。まず、保健衛生学部医療栄養学科・臨床検査学専攻に入学して、4年間で着実に臨床検査技師の国家資格を取得することを目標に励んでいただくことをお勧めします。

・臨床検査技師と細胞検査士の合格率（本学・全国平均）について

本学の臨床検査技師国家資格合格率は令和3年度（2021年）95.5%（全国平均75.4%）、令和2年度（2020年）95.6%（全国平均82.3%）と高い合格率です。細胞検査士は本学大学院・細胞検査士資格取得コース、初めての修了生、2名受験、2名合格（100%）でした。全国平均は25.0%～40%くらいです。細胞検査士の試験は、臨床検査技師の国家試験合格者が受験しているにもかかわらず、高度な専門職で試験は難しいことがわかります。

・日本臨床細胞学会（細胞検査士取得に関すること）の規定

細胞検査士は、公益社団法人日本臨床細胞学会が認定する資格であり、細胞検査士を取得するには臨床検査技師の資格を有していることが条件となります。つまり、細胞検査士資格に合格しても、その後実施される臨床検査技師の国家資格に不合格になると細胞検査士の合格は取り消しになります。本学は、大学で臨床検査技師、大学院で細胞検査士を目指します。

・学部4年で臨床検査技師、大学院2年で細胞検査士を取得する意義

本学は、臨床検査学専攻の学部生全員が臨床検査技師を目指しています。令和3年度(2021年) 95.5% (全国平均 75.4%) の合格率でした。これは、学生、教員全員が高い意識を持ち日々努力した結果と言えます。一丸となって1つの目標を達成しようとする気持ちが高い合格率に繋がっています。二兎を追う者は一兎も得ずという西洋のことわざがありますが、本学では、全員が、まず、臨床検査技師国家試験合格を目指します。

大学院では、細胞検査士資格取得コースのカリキュラムを修了することにより、細胞検査士受験資格及び修士の学位の取得可能となります。修士の学位は学校教育法で定めるカリキュラムを大学院で修了すると授与されます。よって本学大学院を修了すれば6年間で、2つの学位と2つの資格取得ができ、就職することになります(図)。これは、医療人として社会に大きく貢献できることは言うまでもなく、多くのがん患者を救うことができます。

大学院修了時に得られる資格

年数	学位	資格
大学(4年間)	学士(大学)	臨床検査技師(国家試験)
大学院(2年間)	修士(大学院)	細胞検査士(認定試験)

※学位とは日本国の学校教育法第68条に基づく学位である

※臨床検査技師とは厚生労働大臣が認定する国家資格である。

※細胞検査士は日本臨床細胞学会が認定する資格である。

・本学大学院細胞検査士資格取得コース教育体制

日本臨床細胞学会認定の細胞診専門医、細胞検査士、国際細胞検査士が丁寧に授業、実習を展開します。細胞診専門医は日本臨床細胞学会理事、三重県臨床細胞学会元会長等の医師の先生方が授業を行います。細胞検査士は、三重県臨床細胞学会細胞検査士会元会長、副会長等の先生方が授業、実習を展開します。本学の先生は国際学会会員でもあり国際細胞検査士の資格も有しています。

細胞診標本は、本学、大学院に約7000枚の標本が各分野、用意されておりスクリーニング、同定を行います。また、1年間、本学が提携する病院に実習に行き、病理・細胞診の臨床実習を行います。

・国際細胞検査士について

諸外国で細胞検査士として活躍するために必要な資格です。国際細胞検査士の資格を有し、欧米等で働く臨床検査技師もいます。日本の細胞検査士は世界でもトップクラスで国際細胞学会認定の国際細胞検査士は半数以上が日本人です。本学の教員も国際細胞検査士の資格を有しており、細胞検査士のみならず、国際細胞検査士資格取得に向けても授業、実習を展開します。

・社会人（臨床検査技師）の皆様へ

細胞検査士資格認定試験の受験資格として、臨床検査技師として細胞診検査の実務に1年以上従事した者であることとされています。本学大学院では細胞検査士の資格を働きながら取得していただくことを目的に教育します。近年、社会人を対象に門戸は大きく開かれており、社会人大学院が年々増えつつあります。大学院卒業時には修士の学位に加え、細胞検査士の資格取得が可能となります。

また、科目等履修生として細胞検査士養成のための教科を受講することができます。

・細胞像（婦人科スメア）

写真は子宮頸部の HPV（パピローマウイルス）感染細胞像です。表層細胞(右下矢印)と中層細胞(左上矢印)の核が腫大し、コイロサイトーシス(細胞質が明るく抜けた所見)が認められます。HPV 感染細胞は子宮頸癌の前癌病変と言われています。細胞検査士は、核や細胞質の状態等を詳細に観察することで前がん病変やがんを正確に見つけ出し、がんの早期発見、早期治療に貢献しています。

